



九州大学 21世紀プログラム

専門性の高いゼネラリストを養成する
学部横断型教育プログラム

林 篤裕

(九州大学 高等教育開発推進センター
& アドミッションセンター)

(21世紀プログラム基幹教員)

e-mail: hayashi@rche.kyushu-u.ac.jp



九州大学 概要

総長1・理事8・監事2 計11名

学部 11 (+1)
大学院学府 18

附置研究所等 4
附属図書館 1 (分館5)
(蔵書約400万冊)
病院 1 (約1,400床)
全国共同利用施設 1
学内共同教育研究施設 32
機構 4

2009年5月1日現在

学部学生 11,713名
(女子 3,468名)
大学院生 6,843名
(女子 1,775名)

外国人留学生
1,509名 (81ヶ国・地域)
学生の海外留学 2009年度
154名 (23ヶ国・地域)

教員 2,186名
教授 719名
准教授・講師 748名
助教他 719名

事務・技術職員
2,600名

学部卒業
約12.7万人
修士修了
約4.1万人
博士学位
約2.4万人

土地 約75km²
福岡、長崎、熊本、
大分、宮崎、鹿児島、
北海道



2011年度(平成23年度) 入学者選抜 (予定)

一般入試
センター試験+個別学力検査

前期日程

全11学部 2,023人

79.1%

後期日程

教育、医・保健、薬、芸工を除く
8学部 336人

13.2%

入学定員
2,556人
11学部
+
21世紀プログラム

帰国子女
私費外国人留学生
社会人

AO入試

AO入試 I

[センター試験を課さない]

教育、薬、
21世紀プログラム
48人

7.7%

AO入試 II

[センター試験を課す]

理(全学科)、医・保健、
歯、芸工(全学科)、農
149人

九州大学AO入試 2011年度AO入試 (予定)

文学部

教育学部 10

法学部 2009年で終了

経済学部

物理 10

化学 15

理学部 地球惑星 8

数学 8

生物 5

医学部

医学 9

生命科学 6

看護 9

保健 放射線 6

検査 6

歯学部 8

薬学部 6

創薬科学 6

臨床薬学 6

工学部

環境設計 8

工業設計 15

芸術工学部

画像設計 18

音響設計 5

芸術情報設計 8

農学部 20

21世紀プログラム

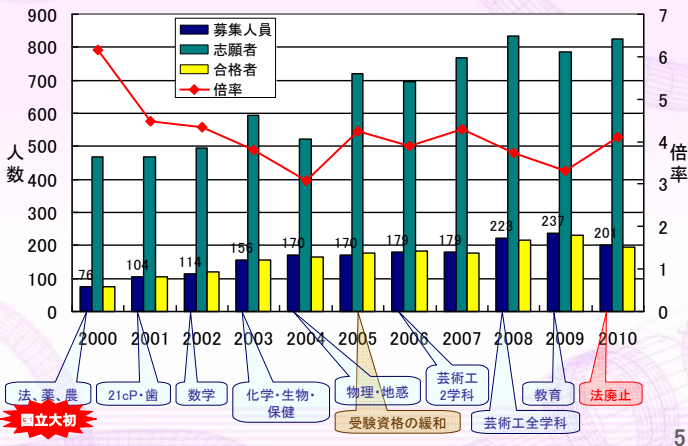
26

7+1学部 19募集区分
総募集人員 197名

定員の
7.7%

★: センター試験を課さない

九州大学AO入試 志願者数の推移



The 21st Century Program 理念

専門性の高いゼネラリスト

創造を引き出す知識と
基礎的な知識
21世紀プログラム
「外」に開かれた知識

学部横断的な教育プログラム

求める学生像 (募集要項から)

- ◆ 自ら今日的な諸問題を発見し、これらを解決するための課題を設定し、その深い解明をめざして学習しようとする自主性があること。
- ◆ 文系・理系にこだわることなく、広い分野の学習を進めながら関心の幅を広げ、総合的な探求の能力を高めることによって、自らの能力を最大限に発揮して行こうとする意欲があること。消極的な意味で自らの専門を決めることができないというのではなく、あれもこれも学びたいという積極的な意欲があること。
- ◆ 学問を深く学ぶために、必要な基礎的な能力を身につける努力をいとわず、積極的に学習を進めることができる意欲や能力があること。
- ◆ 現代の政治や社会、歴史や文化、自然などに関する基本的な知識など一定以上の「教養」を身につけていること。特に戦後から現在までの現代の国内・国外の問題について関心があること。
- ◆ 海外留学ができるための相当の語学力を身につけることに意欲があること。

7

21世紀プログラム:教育の枠組み

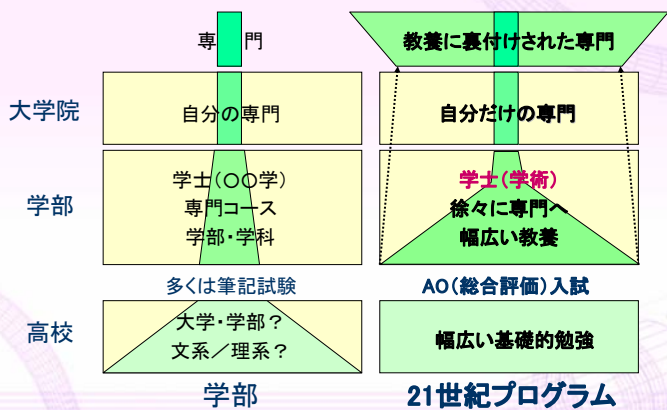
2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



幅広い教養、表現力、国際性を身につけ、チューターへの指導を受けつつ、いろんな学部の専門を組み合わせることで「自分だけの専門」を創る。

8

専門を決める



9

課程現況

	入学年度	募集人員	合格者	入学者	転課程	退学	卒業者	交換留学
卒業	1期 2001	18	20 (5)	20 (5)	1 (0)		21 (5)	9
	2期 2002		22 (8)	22 (8)	2 (1)	1 (1)	23 (5)	4
	3期 2003	21	19 (5)	19 (5)	1 (1)	1 (0)	19 (6)	6
	4期 2004		25 (5)	25 (5)		3 (1)	22 (4)	2
5期 2005	30 (12)		30 (12)	1 (1)	1 (1)	29 (11)	12	
在学	6期 2006	26	27 (7)	26 (7)	2 (1)		24 (7)	5
	7期 2007		27 (9)	26 (8)	1 (1)			10
	8期 2008		27 (10)	27 (10)	2 (1)			3
	9期 2009		28 (7)	27 (7)	1 (0)			4
	10期 2010		27 (6)	27 (6)				
総計			252 (72)	249 (71)	11 (6)	6 (3)	138 (38)	55
在学生数		116						

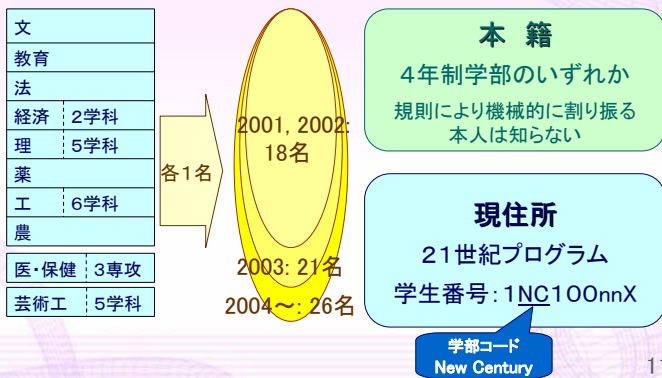
()は男子で内数

2010/4/1現在

10

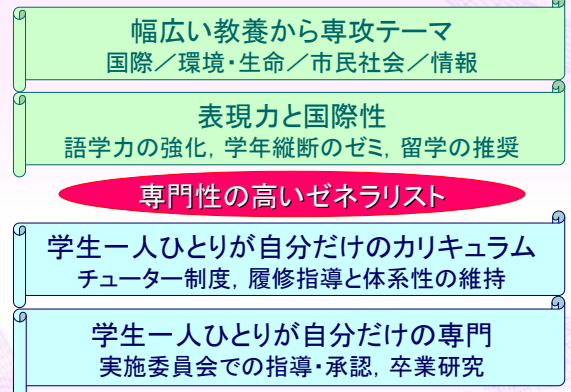
定員(募集人員)と学籍

4年制学部の募集区分の前期日程から各1名



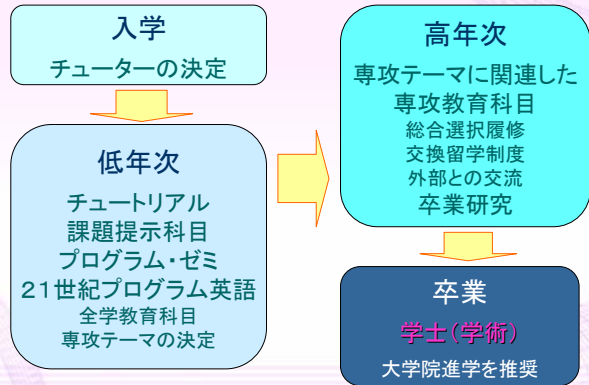
11

教育の柱



12

教育課程



13

課題提示科目

毎年度前後期各2つのテーマと世話教員を決めて実施 1年次全て必修

年度	テーマ	年度	テーマ	年度	テーマ
01	国際	04	地域と文化	07	21世紀の医療倫理
	環境・生命		夢の光「シンクロtron光」		ころとからだ
	市民社会		様々な世界観		現代の廃棄物問題
	情報		新しい知識観		エネルギー問題への挑戦
02	教育	05	社会問題のなかで倫理を考える	08	世界の中の日本
	科学研究のあり方		地球の環境・宇宙の環境		自己癒しの探求—様々なセラピーの在り方と体験
	グローバル化		歴史としての現代技術		近未来を支える科学教育の意義と任務
	人間の精神		文化財を守る		温室効果ガス排出削減問題
03	地球自然環境	06	私たちにとてのもう一つの現代	09	医療倫理学
	予防原則		人類 vs 感染症		日本の多様なアイデンティティ
	ローカルとグローバル		大学における「教養教育」とはなにか		異界コミュニケーション
	批判的な態度		21世紀社会のグランドデザイン		被爆地長崎で平和を考える

14

時間割例1

3期生 男子 1年後期

	月	火	水	木	金	土
1		物理学基礎実験	文芸と人間	英語表現法B	総合英語演習	チュートリアルII
2	中国語II	物理学基礎実験	課題提示科目IV		プログラム・ゼミII	
3		英文作成演習A		中国語II	倫理学	
4	課題提示科目III	物質の世界	ノマド論	健康スポーツ科学講義	情報処理基礎演習	
5			全て伊都キャンパスで受講			

21世紀プログラム独自科目 全学教育科目
伊都キャンパス

15

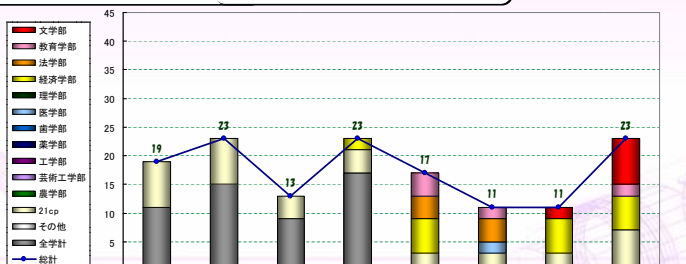
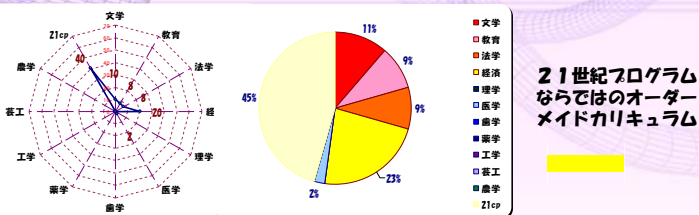
時間割例2

2期生 女子 2年後期

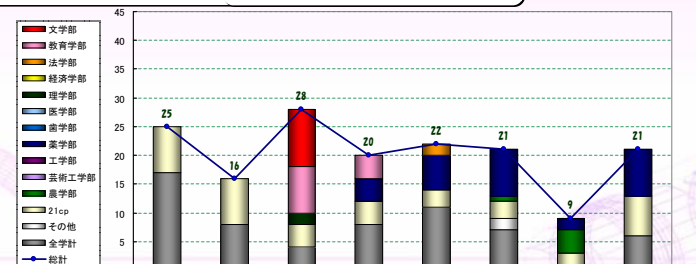
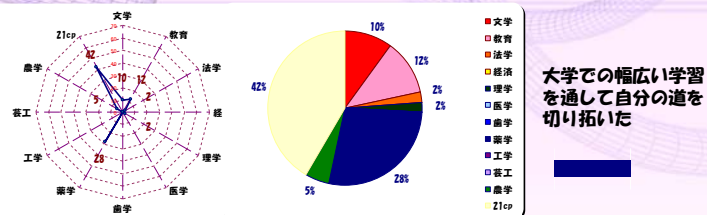
	月	火	水	木	金	土
1	国際経済学(経)	森林防災学(農)	地域政策(経)			
2	生態学(農)	社会調査法講義(文)	地域農業計画論(農)	地理学実習VII(文)	プログラム・ゼミIV	チュートリアルIV
3		生産流通科学概論(農)	英文作成演習B	伊都と箱崎キャンパス間の移動には1時間必要		
4		基礎地質学(理)	英語発想法B	基礎気象水文学(農)		
5					英語特別演習	

独自科目 全学教育科目 文系専攻教育科目 理系専攻教育科目
伊都キャンパス 箱崎、大橋または病院キャンパス

16



17



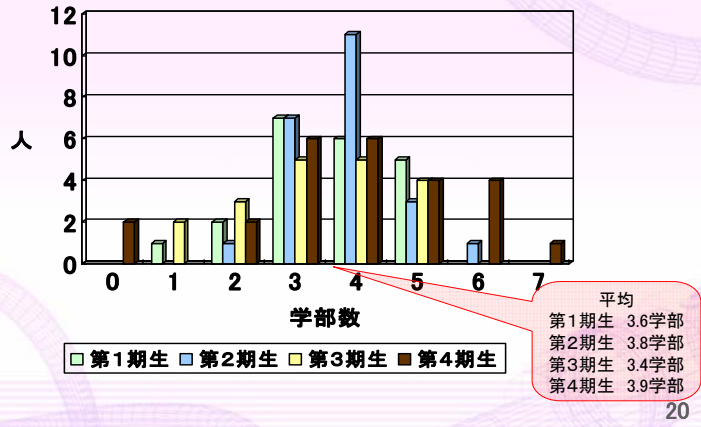
18

第1期生の履修履歴

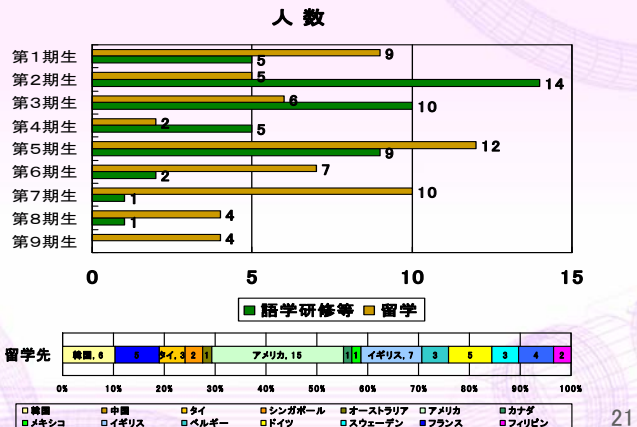
学生	文	教	法	経	比	理	医	薬	工	芸	農	学部計	文系	理系
a	11	44	4									3	59	100
b		38	14	2								3	54	100
c	6	10	74	6								4	96	100
d	7	2	50	2								4	61	100
e	2					2						63	3	67
f												49	1	49
g	18		16									2	34	100
h	12	22	4									3	38	100
i	10	20	4	2								4	36	100
j	4	4	6	20					2		2	5	42	95
k	23	12		2					2		4	39	95	5
l	4	2	22	2					2		2	5	32	94
m	28	2		10					6		2	5	48	83
n	10		4	6		10					4	5	34	59
o	12		4	6								38	4	60
p	10			2					24			4	40	30
q	8	10	8	14								4	40	100
r	14		10	8					2	2		5	36	89
s	4		10	20							8	4	42	79
t	4	8					8	3				21	5	44
u	8	14	2				8	25				5	59	44

■ 留学 ■ 履修申請 ■ 卒業研究 ■ 比:比較社会文化研究課 19

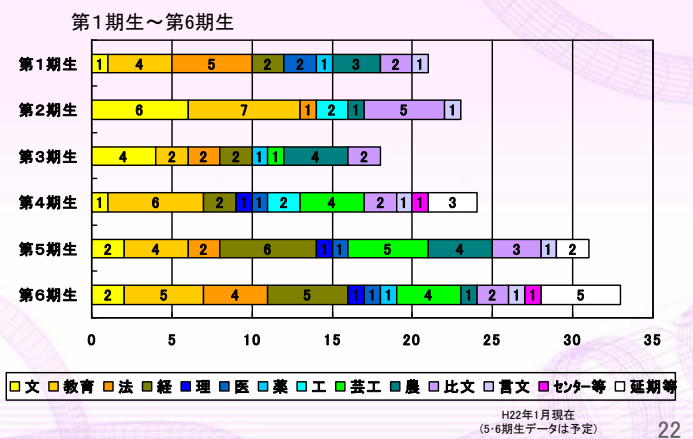
履修学部数 単位取得学部数



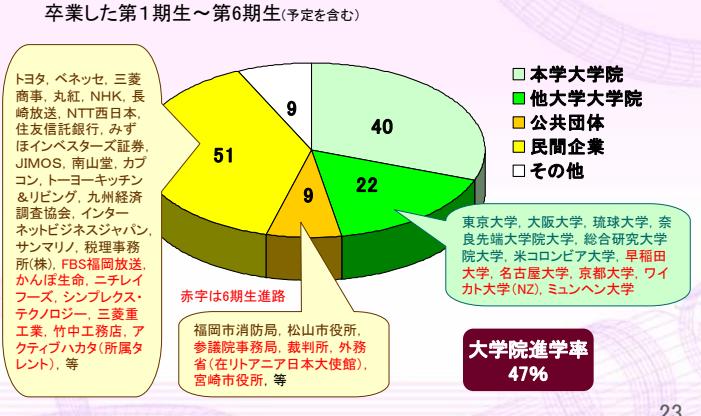
留学・語学研修 (予定を含む)



卒業研究



卒業生の進路



選抜の流れ



第1次選抜

- ◆ 出願時提出資料
 - ◆ 志望理由書(2面)
 - 志望する理由、自己の適性や抱負
 - ◆ 調査書等(内申書):
 - ◆ 活動歴報告書(2面): 中学からの活動を記載可
 - 各種活動、表彰、資格等
- ◆ 第1次選抜: 書類審査
 - ◆ 「AP」や「求める学生像」との合致度合を評価
 - ◆ A～Dの4段階(活動歴報告書は3段階)
 - ◆ 4名で評価
 - ◆ 順位の高いものから3倍程度に絞る
(2010年度入試の例では80名。3.1倍)

25

第2次選抜



第1日目(土曜日)

9:30-11:30 講義1・レポート1 (120分)

12:30-14:30 講義2・レポート2 (120分)

15:00-17:00 講義3・レポート3 (120分)

軸が違う3テーマ
講義:約50分
レポート:約70分

講義や資料に
英語を含むことがある

第2日目(日曜日)

論題は当日朝に提示(“予習”を避けるため)

9:00-11:30 グループ討論 (150分)

12:30-17:00 小論文 (270分)、個人面接

3つの講義から
2つを選んで討論

15分/人

3つの講義のいずれかに関
連するテーマを設定して作成

随時別室で休憩可

26

講義

01	「きたない」ってどういうことだろう? ・転換期の日本の原子力発電政策 ・経験や直感による判断と論理による判断	06	・国民国家はこれからも必要だろうか? ・歴史を書き換える:ソ連史の場合 ・左と右の化学から考える環境問題
02	・歴史の見方ー島原の乱 ・「行為」とは何か? ・振り子の糸の長さを変化させて 周期を測定する実験	07	・何に権利を付与するのか ・生命(いのち)は誰のものか ・個体差を科学する
03	・現代社会における責任倫理 ・〈異文化〉としての過去 ・福利厚生・体育施設による キャンパスライフの創造	08	・大学の社会的機能の変化 ・住民の視点から: From the native's point of view ・業と遺伝子
04	・地図を通してみた〈世界〉 ・科学研究活動を考える: 特に「観察する」とはどういうことか ・生体変数(脈拍数)の変動性を科学する	09	・イエズス会士が見た16世紀の日本 ・原子力損害賠償法は見直すべきか ・作物増収の戦略における植物の機能
05	・考古学とはどのような学問か ・『イギリス人』とは誰か? ・Symmetry in Fantasy	10	・読むことの意義 ・いまどきの権力を考える ・南極の地球科学と地球環境変動



- 大学の講義を聴いただけでも、受けた甲斐があった...
- 何の話があるのか興味津々だった...

27

評価体制

1次		書類審査	2次			講義1	講義2	講義3	他に監督等 3～5名	
委員	●●●●		A委員	●●●●	●●●●	●●●●				
志望理由書		全志願者 (90名)	レポート	全受験生(80名)			●:主担当			
調査書等			小論文	選択した受験生(～40名)						
活動歴										
			2次	あ	い	う	え	お		
			B委員	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●		
			討論	●:文系、●:理系、●:カウンセラー/3名中1名女性						
			面接	1グループ受験生16名						

評価は、A～Dの4段階評価(活動歴は3段階評価)。

28

第2次選抜 グループ分け(討論、面接)

- ◆ 第1次成績を均等化
右表をベースにし、さらに
- ◆ 男女比が均等
- ◆ 現浪比が均等
- ◆ 地域性が均等
- ◆ 同一高校別グループ
になるように組換え

第1次成績

グループ				
あ	い	う	え	お
1 → 2	3	4	5	↓
10	9	8	7 ← 6	↓
↓	11 → 12	13	14	15
20	19	18	17 ← 16	↓
↓	21 → 22	23	24	25
30 ← 29	28	27	↓	26

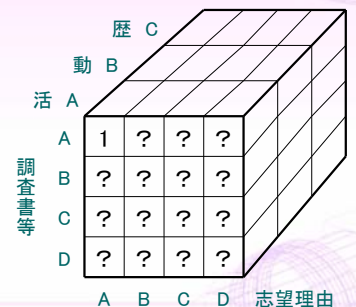
29

多次元マトリックス方式

第1次選抜の順位付け 3次元の例

1次:書類審査
4名の委員が各々
全受験生を評価

- ① 志望理由書
 - ② 調査書等
 - ③ 活動歴報告書
- を3次元で評価



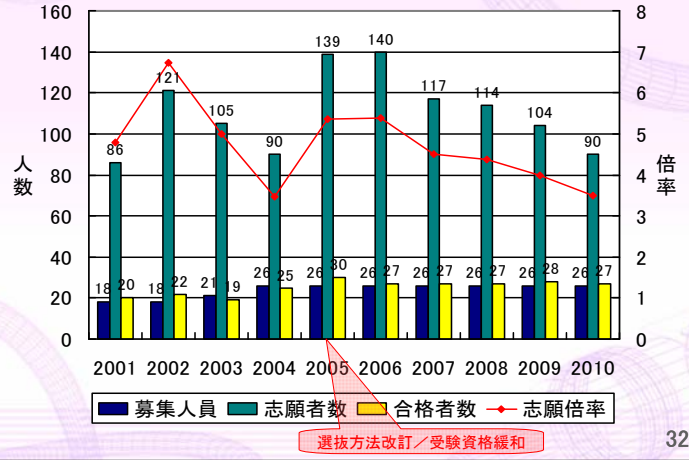
30

評価方法

- ◆ 評価：A～D (活動歴報告書はA～C)
- ◆ 評価順位：1位～48位:直方体のセル
- ◆ 評価(順位)点：1位～受験者数
 - ◆ 同一順位の人数を加味した順位(中央値)
- ◆ 合計評価点：評価者ごとの順位の総和
 - ◆ 値が小さい方が高順位
- ◆ 査定
 - ◆ 第1次選抜、第2次選抜に関係した35名程度で行う
 - ◆ 討論、面接時の対応
 - ◆ D評価を付けた理由について
 - ◆

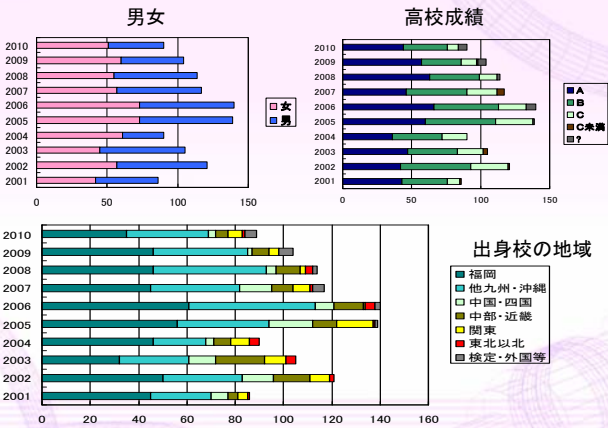
31

志願者数の推移



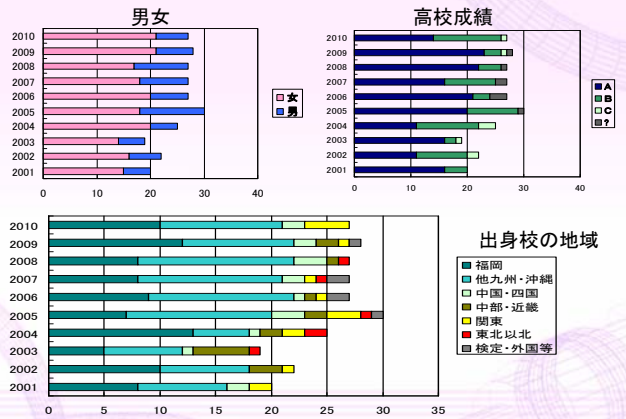
32

志願者の特性



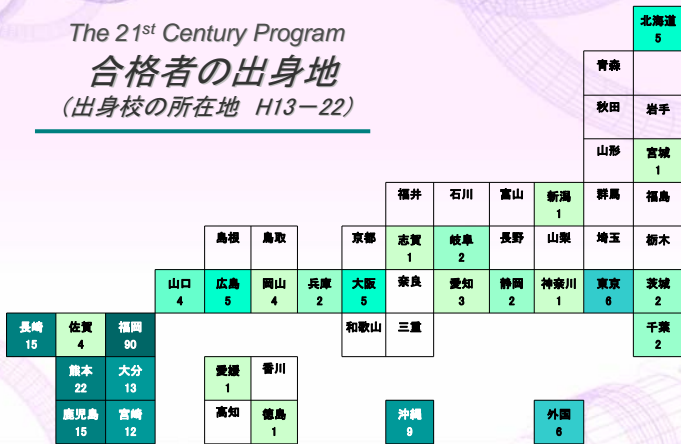
33

合格者の特性



34

The 21st Century Program 合格者の出身地 (出身校の所在地 H13-22)



35

選抜のまとめ

- ◆ 非常に手間がかかる ==> “良い”学生を確保
 - ◆ 準備
 - ◆ 委員の選定、確保
 - ◆ 評価方法
 - ◆
- ◆ 1次選抜と2次選抜に相関はあまりない
 - ◆ 1次選抜において優秀な受験生の取りこぼしは避けなければならない
 - ◆ 1次選抜の不合格者をよく吟味する必要がある
- ◆ 志願者を増やす方策を
 - ◆ より一層の広報が必要:オープンキャンパス等

36